



第10回スピーチ集会

<持続可能な海について>

(1年 池村幸大)



僕は西表の海が好きです。なぜなら、とてもきれいな海だからです。きれいなだけではなく、たくさんの貴重な生き物が住んでいるからです。特に僕は、魚をついたり、釣ったりすることが好きです。西表では竿を使って1匹1匹釣ったり、潜りで魚をついたりしながら、海とつき合ってきました。しかし、東京の海では、人がたくさんいるし、魚の捕り方も底引き網で根こそぎ漁をしています。このように漁を続けていると、魚がほぼいなくなってしまいます。しかし、西表の方法だと10年後、100年後も同じ海で同じ獲物を捕ることが出来ます。このような方法を持続可能な海とのつき合い方といいます。

自分のおすすめの海とのつき合い方について説明します。それは、泳がせ釣りという釣り方です。まず、えさとなる小魚を釣ります。そして①魚を海底までおろし、大型の魚が来るのを待つ。②その泳がしていた魚に大型の魚が近寄ってくるとびっくりしてあばれ出すので、持っている竿に伝わってくる。③大型の魚が泳がしている魚に食いつくと、竿がぶち、まがり、手から竿が離れそうになるくらいあたりが伝わる。

僕は、この釣りを一度やりましたが、とても楽しくわくわくします。このような泳がせ釣りができるということは、西表の漁はとても魚が多い豊かな海だといえます。

持続可能な海とは、10年後も100年後も釣りや潜り漁ができる海だと思います。

しかし、海には、恐ろしいこともあります。それはシガテラという毒で自分も苦しめられました。食べても6時間後に強れつな腹痛におそわれ、しっしんします。腹痛は眠っても治ることはなく何も食べることができません。怖いのは、腹痛だけではなく、皮膚の感覚の異常です。冷たい水をさわるとやけどのように痛く感じます。床を歩くとひりひりします。しかし、一番怖いのはかゆみです。布団に入ってもかゆいし風呂に入っても強れつなかゆみにおそわれます。かゆくて休もうとしてもそんな暇がありません。普通のかゆみと違い、皮膚の表面がかゆいのではなく、皮膚の内部がかゆいイメージで、いくらかいても届かない状態です。だから僕みたいにならないでください。そのために、毒のある魚を見分ける知識をしっかりと身につけましょう！



竹富町立
船浦中学校
学校便り
第44号

発行責任者
校長
仲田欣五

小学校への乗り入れ授業 (健先生)



9日(火)の3、4校時に上原小学校との小中連携の一環として、本校の宮崎健先生による小学校への乗り入れ授業を行いました。今回は、外国語の授業を5年生、6年生に対し、それぞれ1時間ずつ行いました。英語教師による専門的な授業で、上小の児童たちもとても刺激になったと思います。特に6年生はこの4月から船中に入學してくる児童たち



ちなので、より親しみが湧き緊張もほぐれることが期待されます。上小の子どもたちも楽しそうに授業に臨んでいました。4月の入学式が楽しみです。